



東九州支部報

第81号

公益社団法人日本山岳会東九州支部



平成30年度支部定期総会・4月21日(土) 於大分市「コンパルホール・視聴覚室」

も く じ			
1. 支部活動		2. 個人投稿	
平成30年度支部定期総会	2	ペンリレー(第27回)「青年部活動に思う」	10
平成30年度・支部の主な計画	3	より安全な山登りのために(N028)	11
登山計画書の提出について	4	生と死の分岐	12
支部ルーム	4	私の無名山ガイドブック(第68回)	13
可愛岳(1月月例山行報告)	5	大分百山完登(N06)	14
八方ヶ岳(2月月例山行報告)	6	会務報告	14
祇園山・揺岳(3月月例山行報告)	6	お知らせコーナー	
万年山(4月月例山行報告)	7	月例・研修山行計画ほか	14
青年部研修山行(宇土内谷)	8	新入会員オリエンテーションほか	15
青年部研修山行(吉和冠山)	9	後記	16

登山計画提出の励行など

平成30年度支部定期総会

飯田 勝之(10912)

平成30年度定期総会が4月21日(土)午後6時から大分市府内町「コンパレホール・視聴覚室」で開催されました。はじめに甲斐副支部長の開会あいさつのあと議長に薬師寺正憲会員(15481)を選出し、薬師寺議長のもと議事が進行されました。次に事務局から資格審査発表があり、4月1日現在の会員73名のうち出席会員60名（そのうち委任状出席22名、別に準会員3名、会友の25名出席）で規約第15条に定めるところの、会員の過半数以上の出席により、総会が成立していることの報告がありました。そして議事録署名委員に桜井依里会員(15463)と大渡崇夫会員(16206)の会員が指名されました。

このあと加藤英彦支部長より「本年は大分県で国民文化祭が開かれる年でもあり、登山文化の振興という意味でも支部が役割を果たしていきたい。高齢化が進行している当山岳会の活性化と支部の会員の増強に向けて努力しなければならず、また登山計画書提出の励行がJACの新たな課題となっており、この会に入会した時の気持ちに戻って支部の活性化のための活動に参加して欲しい」とあいさつしました。

このあと議事に入り、第1号議案の平成29年度事業報告について事務局から説明がありました。この報告の中では公益的事業として第5回登山入門教室や青少年体験登山大会、山の日登山の実施、スズタケ枯死とシカの食害調査などの公益事業、また、共益事業では月例山行や研修山行、望遠会と忘年山行、韓国山岳会ウルサン支部との交流などが主要な内容でした。

今年度の登山入門教室の修了者の中から、会員2名、会友8名の入会者があり、この日の総会にそのうち会員2名、会友3名が出席しており、紹介がありました。

次に第2号議案平成29年度会計決算報告について事務局から、平成29年度監査報告について監事から報告がありました。この報告の中では単年度収支で約17万2千円の赤字となっていることが報告されましたが、60周年記念積立金は例年通りに10万円繰り入れることが提案され、決算報告通り承認されました。

続いて第3号議案の平成30年度事業計画案について事務局から提案説明がありました。新年度業の主な内



総会で自己紹介する登山教室修了の入会者

容は、公益的事業では第6期登山入門教室、第17回青少年体験登山大会、今年は別府市で開催予定の「山の日登山」の実施、スズタケ枯死とシカの食害調査、山の安全を祈る集いなど、また共益事業では月例山行、研修山行などの山行計画や今年は韓国を訪問して行う韓国山岳会との交流などの事業計画が提案されました。

さらに、青年部の活性化とそのための補助や、支部のルーム開設なども新たに提案されました。月例山行は役員会で完全に煮詰めていないところがあり、改めて検討して支部報等で周知することとなりました。

これらの提案を受けて、青年部への補助の内容とその成果などに意見が出されました。青年部に対しては、次代を担う役割を果たしてもらうため、必要な援助を続けながら、会員への加入促進などへつなげていくことが強調されました。また研修山行が実施されていて、非常に内容は良いが参加者が少ないので、もっとみんな参加しようという意見がありました。

第4号議案の平成30年度会計予算案については、繰越金の算入に誤りがあったため、収入合計が13万円あまり不足し、予備費の計上に無理が生じたため、再度役員会で検討し直すこととなり、新年度予算案は役員会に委任するかたちとなりました。

次に第5号議案「規程の制定等について」では、本部の遭難対策規程の改正に基づき、登山計画書の提出が会員に義務づけられたことと、支部に登山計画書のチェック機関の設置が支部に義務づけられたことを受けて、「1. 支部遭難対策規程」の制定が提案されました。

主な内容は①登山計画書のチェックのため支部に「登山計画受理検討委員会（検討委員会・委員は支部長が指名）②山行を「支部山行」と「個人山行」に分け、支部山行は支部でチェックしたものを支部から本部へ送る。個人山行は支部でチェックしたものを計画者本人が本部へ送る。③準会員・会友も個人山行の計画書を支部へ

提出する。というのがその大綱です。この議案にはたくさんの方の質問意見が出されましたが、本部遭難対策規程の改正の趣旨をふまえて、登山計画書の提出励行が決定されました。

次に「3. 支部ルーム設置要項」の提案があり、趣旨は大変良いが、定期的に、決まった場所での開催するというところにやや流動的な点があり、また実際に支部会員がどのように活用できるか、やや疑問もあるが一応5月から開催していくこととなりました。

平成30年度の主な事業計画

公益事業

① 第6回登山入門教室の実施

対象者 山登りの初心者

実施時期 9月から12月

② 第17回青少年登山教室(体験登山大会)

9月9日(日) 牧の戸峠から久住山

③ スズタケの枯死とシカの食害状況調査

本谷山西の稜線で6月2日(土)と10月6日(土)に実施予定

④ 清掃登山の実施

実施期日 10月20日(土) 21日(日)

実施場所 九重山系の登山道

⑤ 「山の日登山」の実施

名称 「山の日登山」 ふるさとの山を登ろう in 別府市・小鹿山

日時 8月11日(土)

場所 別府市小鹿山・志高湖スタート

⑥ 山の安全を祈る集い

日 時 毎年8月第1日曜日(本年は8月5日)

場 所 久住避難小屋上の遭難慰霊碑前

⑦ 大船山ミヤマキリシマ保護活動

大船山山頂付近のミヤマキリシマ支障木の除去作業にボランティア参加 (実施時期10月)

共益事業 (支部行事)

① 月例山行 (一部見直しの予定)

2018年度のテーマ『読図を考える。登山力アップを』

5月 五葉岳(1569.6m) (アケボノツツジ)

6月 尻付山(587.3m)・ハジカミ山(570m) (ちょっとマイナーなヤブ山)

7月 鬼ノ目山(1491.0m)、国見山(1391.5m) (宮崎県・ツチビノキをたずねて)

8月 稲星山(1774m)・中岳(1791m)

(山の安全を祈る集いに追加)

9月 尾山(749.9m) (耶馬溪・マイナーなヤブ山)

10月 男鈴山(783.4m)・岩壺山(737.6m) (宮崎県) (昨年台風で取りやめた山)

11月 乙野山(1100.9m) (旧宮崎百山・マイナーなヤブ山)

12月 忘年登山

1月 三俣山(1744.3m) (雪山に慣れる)

2月 十種ヶ峰(988.6m) (山口県・島根県・雪山を楽しむ)

3月 皿内城山(535.7m) (宇目・厳しい岩山)

4月 目丸山(1341.4m) (熊本県・カタクリの花をたずねて)

② 研修山行 (入門教室修了者キャリアアップ講座兼沢登り研修)

6月16日(土) 鳴子川 (九重連山) 沢歩き

7月1日(日) 成瀬谷 (古祖母山) 沢登り (初級)

8月18日(土) アキギリ谷 (応用・古祖母山沢登り) (ヤブ山歩き研修 (西山から新百姓山へ))

5月 新百姓山へその1 西山から生木峠

9月 新百姓山へその2 生木峠からクサギヤブ

11月 新百姓山へその3 クサギヤブから新百姓山

12月 新百姓山からその4 杉ヶ越か～新百姓山へ、天神原山

1月 上帯迫より奥天井、上奥天井

③ 合宿交歓会

月日 10月20日(土) 21日(日)

場所 九重坊ガソル「あせび小屋」

④ 新入会員・会友オリエンテーション

時期 6月28日(水) 午後6時から

場所 大分市 コンパルホール

⑤ 忘年登山と忘年会

期日 12月8日(土) 9日(日)

山行 県南の山

忘年会会場 県南の宿

⑥ 韓国山岳会蔚山支部との交流登山

本年度は当支部が韓国を訪問して交流を行う

実施時期 9月23日～25日を予定

場 所 ウルサン近郊の山

⑦ 青年部の活動

1. 研修山行 2018年度(冬期)

11月 観音岩 ロープワーク (由布岳)

12月 高崎山 アイゼンワーク

1月 九重連山（実践）あるいは 鶴見山系境川
上流部の谷

2月か3月 山陰地方のどこか 土日を含む日間

② 青年部をユースクラブ青年部に分離する

③ 若年会員の加入促進特別援助制度の創設

35歳未満の会員加入者に対して入会金を支部より
10,000円を援助する。支出財源は積立金会計
から支出する

⑧ 支部報の発行

本年度も季刊として、4月（第81号）、7月（第
82号）、10月（第83号）1月（第84号）を
発行する。

⑨ 支部創立60周年に向けての準備

昭和36年（1960年）創立から60周年を迎える平成
32年（2020年）にむけて、記念事業の準備を開
始する。

⑩ 喜寿お祝い登山

今年喜寿を迎える会員・会友の喜寿お祝い登山会を10
月～11月実施 対象：…（会員）…大林正彦、野村芳雄、
管勲、中島洋祐、薬師寺正憲、土屋多喜子
（会友）…松村豊寛、吉田邦子、橋本桂子

登山計画書の提出について

JAC本部の遭難対策規程の改正により、会員の行う
登山及び山岳活動のすべてが、その計画書を本部の遭難
対策委員会へ提出することが義務づけられることになり
ました。これを受けて東九州支部でも支部遭難対策規
程を制定し、支部会員（会員・準会員・会友）の登山計
画書の事前提出制度を徹底することとなりました。

その主な内容は次の通りです。支部会員の皆さんの励
行を習慣化するように心がけましょう。

支部遭難対策規程の主な内容

（1）検討委員会…支部に登山計画受理検討委員会（検
討委員会）を設置し、提出された登山計画をチェッ
クし、必要な助言等を行う。（検討委員：加藤英彦・
甲斐良治・安東桂三・大平展義）

（2）山行区分

① 支部山行 月例山行や支部行事の山行

② 個人山行 ①の支部山行以外の支部会員が行
う登山活動（個人山行、支部会員のグループ山行、
会員がリーダーとなる部外者を含むグループ山行
など。但し他の団体等が行う登山活動に個人が参加
する場合は除く）

（3）登山計画の提出

① 支部山行は3日前までにリーダーが登山計画を策
定し検討委員会へ提出し、検討委員会の了解を得た
ものを事務局から本部遭難対策委員会へ提出する。

③ 個人山行は3日前まで（3日以上の縦走
山行は一週間前まで）に検討委員会へ提出し、検討委
員会の了解を得たものを当人が本部遭難対策委員会
へ提出する。

④ 準会員・会友の登山活動は3日前まで（3日以上の
縦走山行は一週間前まで）に検討委員会へ提出する
（4）受付窓口

登山計画書の提出先は支部事務局とし、メールアドレス
jackeikaku@ant.bbiqu.jp

支部ルームの開設

定期総会では支部ルームの開設が提案されました。支
部ルームとは所定の場所を借り、借り上げて事務局
を置き、資料等も整備し、会議を開いたり、いつでも支
部会員が自由に出入りして、山行の打ち合わせや相談、
山の情報交換をしたり、あるいは特別の用事がなくても
ぶらりと寄ってみて、談笑する、支部のオアシスのよう
なところというイメージです。

しかし東九州支部の財政力では定常的に場所を借用
するような余裕はないため、それは長年の夢でした。

総会で提案されたルームは、低廉な貸し会場（会議室）
を毎月決まった週の決まった時間だけ借り上げて、支部
ルームとして使おうという案です。

この構想について、定期総会案内の返信はがきでアン
ケートをとった結果（回答率会員89%、準・会友68%）
でした。

賛同して、できるだけ参加したい	（会員20、準会員・会友6）
賛同して、時々参加できる	（会員15、準会員・会友15）
賛同するが、あまり参加はできないだろう	（会員26、準会員・会友27）
賛同できない	（会員1、準会員・会友1）
無回答	（会員2、準会員・会友3）

この結果を踏まえ総会では「ルーム設置要項」を制定
して運用することとなりました。ただ、決まった日時（例
えば毎月第1何曜日・午後6時から3時間）に、決まっ
た場所（大分市西部公民館など：会場費安い）を、必ず
確保することが確約できない（貸し出しルール上）とい
う隘路があります。このため当面、場合によっては会場
を変更したりしながら運用して行くことになりました。

月例山行報告

可愛岳

(727.7m)

1 月月例山行報告

阿南寿範 (9169)

1月の月例山行は、宮崎県延岡市にある可愛岳であった。可愛岳は、今年のNHK大河ドラマ『西郷どん』の関係地である。

JR大分駅「上野の森口」6時30分集合・出発。今回の参加者は13名である。駅に12名集合、1名は戸次のローソンにて待ち合わせ。全員が集合したので3台の自家用車に分乗し出発した。

途中1名を拾いR10号を南下、中九州道、R326号を通り、登山口の西郷隆盛宿陣資料館駐車場に向かう。快調に車は走る。車中では会友の宮本氏が、西南戦争の時、西郷隆盛の連れた犬の話 시작했다。西郷隆盛の連れた犬は3匹おり、この地で敗戦が濃厚になると、お役ごめんとし犬を離れたそうである。1匹は新政府軍に捕獲され、もう1匹は行方不明、最後の1匹は西郷が預かる前の家飼い主のもとに帰って行ったそうだ。話を聞き犬の感情も捨てたものではないと驚いた。

駐車場着8時10分。空は晴れているが気温が低く寒い。地元の人の誘導で駐車場所を隅に移動する。

8時15分、各自で準備体操し登山口の取り付け部に向かう。麓集落の中を会話しながらか登って行く、地元の人から声かけられ、何かと思えば、「そっちは行き止まりだよ」と呼びとめてくれた。言われるままに引き返し、家の間の小道(正規ルート)を登る。植林の中を40分程進むとへびら山173mに着く。この辺りから、正面に見られる可愛岳、烏帽子岳が少しずつ大きくなる。道は整備されており歩きやすい。雑木林から造林地となり、ところどころ伐開されており、日が差し込み暖かい、ザレの頭の看板と林道が交差するところに出る。10分程進むと小休止、ここから沢を高巻きたりして道は険しくなる。踏み跡はしっかりしている。

9時50分水場を通過し、10時20分前屋敷に到着。前屋敷は壘壁のみ、少し進むと展望台との分岐に出る。ここから約15分で稜線に出る。10時50分、鉾岩に着く。ここから南側、延岡市・日向灘の眺望がすばらしい。「登れてよかったの一言」稜線沿いは急峻なため、巻き道が多くアップダウンを繰り返す。11時05分、可愛岳山頂727.7m(二等三角点)に着いた。



可愛岳山頂にて

頂上は展望が開け、北側に大崩山系、西側に行轅山、快晴ではあるが冷風。寒いので記念写真を撮り頂上を後にした。来た道を引き返し、前屋敷を抜け分岐点11時50分、山稜をトラバースし稜線に出る。

ほどなく進むと烏帽子岳585.4mの小さな看板。12時00南側の日溜まりで昼食とする。眺望が素晴らしい。眼下に広がる蛇行した北川、日向灘等々。何時まででも居たいが12時35分出発する。緩やかな樹林帯を進むと、立石の看板。とても姿のいいストーンサークルを、右側に見ながら急降下。二本杉をすぎ緩やかに下ると林道に出る。林道の脇の西郷隆盛記念館への看板を辿りさらに下る。

鬼の舟13時00分を通過し、神社裏手に出る。石段を下り13時45分駐車場に着く。無事登山は終了した。13時50分荷物を下ろし、30分ほど「西郷隆盛資料館」を見学することにした。西郷隆盛資料館は、通常静かなところであるが、今年の大河ドラマ「西郷どん」の影響で訪れる人も段々と増えてきているようだ。1時間位あれば満足な見学ができそうだが今回は時間の制約があり少し残念！

それぞれ用事があるためここで自由解散とした。好天に恵まれ参加者は満足してくれたと思う。以上

<参加者> リーダ...阿南、飯田、櫻井、若月、大渡、唐津、久知良、遠江、宮本、芝田、柳瀬、清水、木下



可愛岳の急斜面のジグザグ登り

八方ヶ岳

(1052.0m)

2月例山行報告

宮原照昭 (15683)

今日は、月例登山で筑肥山地の八方ヶ岳に登る。久しぶりに参加することになり朝6時大分駅南口に4台で宮崎の矢谷溪谷キャップ場を目指して大分ICから九重ICを通過して小国で、飯田さんの別府組で落ち合い、鯛生金山から宿ヶ峰尾峠を通過して朝8時30分に矢谷溪谷入り口に着く。

権道から左に入り10分位で登山口に着く。しかし駐車場は満杯なので道沿いに車を止めて準備をして、私がトップで矢谷橋の近くから沢沿いの山道を登って行く。天気も良く少しペースを上げたら後ろからゆっくり行くよう指示があり、ペースを落としてさらに登って行く。

右側の沢に小さな滝がいくつもあり、男滝、女滝、孫滝などの名前が付けられている。紅葉の季節は綺麗になるのでないか？そして古い丸太梯子を登って行くと急斜面になり、だんだん標高上がり稜線にたどり着く。そこは穴川へ下る道と、左に北尾根ルートとの分岐があり、ここを右に行く。道の横には積雪が残っている。

稜線を上っていくとかぶさるように迫る尾根が迫り、これを巻いて登るとピークに着く。それからはやっとなだらかな稜線道になる。

緩くなった道を行くと左へ班蛇口へ下る道の標識があり、その先からやや急な道を登る。登山道には石が多くなり雪もちらほら見えて歩き難くなる。そして山の神分岐から登山道には凍っているため慎重に登ると頂上に11時過ぎに着く。

天気も良く大パノラムの景色である。九重連峰から阿蘇、熊本の金峰山、近くには釈迦岳、渡神岳、酒呑童子山など津江山々、遠く長崎の雲仙普賢岳や太良の山まで見えるという抜群の展望だ。

広い山頂に並んでみんなで昼食を食べ、全員で写真を撮り11時50分に下山開始。滑りやすい道を用意しながら降りると10分足らずで山ノ神への分岐で、そこから左に分かれてどんどん下っていく。

ジグザグに急斜面を下っていくと右に小さな分岐があり、カニのハサミ岩の案内がある。しかし行くと40分位かかる為残念をして降りていく。周りにはヒノキの植林となり、急斜面を何度もジグザグを繰り返しながらぐんぐん下がる。



八方ヶ岳山頂にて

沢沿いに下っていくと次第に傾斜がゆるくなり、そして舗装道路に出た。山ノ神登山口の標識があり、そこから舗装の林道を右に歩いていくと、30分ほどで朝出発した登山口に着いた。

そこで解散をした。この山は車で2時間30分位かかるが、登山道は良くて素晴らしい山だった。秋に又来たい山だ。

<参加者> リーダー…久保・飯田・星子・安部・中島・石川・阿南・芝田・岩崎・丹生・大渡・宮原・牧野・阿部・若月・久知良・長野・遠江・宮本・柳瀬・清水（久）・木下・神田 23名

祇園山 (1307.3m) 揺岳 (1303.5m)

3月月例山行報告

久知良 美登里 (A-17)

3月24日（土）、大分駅午前6時出発、私はローソン戸次店で皆さんを待ち、参加者18名が5台の車に分乗し6時20分、戸次を出発。

中九州道から国道57号を通り竹田へ、さらに高森町を抜け、熊本県の馬見原から宮崎県の高瀬町に入り、鞍岡から林道を登り大石峠へ、ここが登山口。

予定時刻より1時間ほど早く着き、体操の後、まず祇園山から登る。先頭宮原さん、真ん中に浅野リーダー、最後尾久保さんを配置し出発。

最初急登野のあと、10分程なだらかな登りが続くがそのあとは急登、急登と続いていく。汗があられ息

が上がる。途中の登山道には木の枝から落ちた霧氷で、ロックアイスを敷き詰めたようになっている所あり滑って登りにくい。峠から約1時間で頂上へついた、頂上からの景色はすばらしく、しばらく休憩。軽い食事をする人、地図の勉強をする人など思い思いに過ごした後、



祇園山山頂にて

全員集合写真を撮って10時40分下山開始。11時20分に峠の祇園山登山口に着いた。

そこから少し歩いて二つめの山、揺岳の登山口へ。あれた林道からスギ林の中をジグザグに20分ほど登ったところがその目の前に急登が見える。ここで立ち休憩した後、急登が始まる。登りつくと三角点のような石柱がある1218mの小さなピークで再度休憩。

ここからは目の前にさっき登った祇園山の姿も見える。ここからしばらく平坦な道が続き気持ちよく歩くことができる。緩く登って小さく下ったら、頂上直下の急登がはじまった。急斜面には枝から落ちた霧氷が敷き詰められたロックアイスの道が見える。幸いなことにロープと木が立ち並び、私たちをサポートしてくれた。

12時40分無事頂上に到着。ここで昼食。目の前に広がるすばらしい展望を楽しみながらみんな思い思いに弁当を開く。ここでも全員集合の写真を撮り、13時15分頂上出発した。登りの時より滑りやすい急斜面を慎重に下る。

1218mの小ピークで5分間の休憩のあと下山再開。14時20分、峠の祇園山登山口駐車場到着。帰り道の途中、「道の駅そよ風パークで」トイレ休憩と解散式を行い帰路に着く。

常々、「若い方がもっと参加してくれるといいのになぁ」と思っていた私ですが、今回は2名の方の参加があり大変うれしかったです。これからも沢山の若い方に参加して頂きたいと思います。ありがとうございました。
＜参加者＞リーダー…浅野、阿南、飯田、久保、中島、

阿部、桜井、宮原、久知良、長野、遠江、宮本、柳瀬、清水(道)、清水(久)、賀来(和)、賀来(浩)、木下



揺岳山頂にて

万年山 (1139.9m)

4月月例山行報告

岩崎 眞 琴 (会友175)

4月1日、4月月例山行の万年山は天気に恵まれて晴れ。リーダー安東桂三氏 参加者計 20名

午前7時40分に出発地の玖珠町三日月の滝公園駐車場に別府(車1台5名)と大分(車3台15名)が集合。

リーダーから4人のサブリーダーが指名された後、サブリーダーの所に任意集合。5人ずつの4グループができ、この班編成で一日行動することになる。

万年山は台地の中でも上段メサと下段メサ(上バネと下バネ又は本バネと前バネとも呼ぶ:編集局注)ででき、二重のメサ台地として日本の地質百選に選ばれている山田が、今日は山麓の北山田三日月の滝から、下段を経て上段の山頂までの往復だ。

午前8時前に滝駐車場を出発し、麓の集落の道をゆったり進む。万年山は、ミヤマキリシマの頃に一度登ったことがあるが、麓からは初めての経験。朝のうちはヒンヤリした空気も獣除けネットの扉を開けて山に入る頃には、傾斜が増えて来て、暑くなってきたので衣服調整や水分補給で休んでいると、すぐそばに柱状節理の崖が続いていて、リーダーから休憩場所としては不適と指摘されて移動。危険地帯では休憩せず、足早に通過する等の対応が必要な事は知っていたが、気付かなかったことを反省。

スギ林の中のジグザグ登り(旧称・角木坂:編集局注)を登り切ると踏み跡のない雑木林、それを抜けると作業道に出てホッと一息つく。2ヶ所ほど踏み跡なのか分からない藪の中を荊や枯草・笹等をかき分け進んだ。これが下段メサ台地か。作業道に出るとホッと一息。

この冬は寒さが厳しかったせいか、草花の姿が見当たらなかったが、遠くに辛夷の白い花を見つける事ができた。歩くことに精いっぱい、いつもより周りの風景や高山植物に目を向ける余裕がなかった。

それでも、スタートから2時間超、やっとのことで建物の跡の広場(万年山模範牧場の畜舎の跡・旧茶屋場の跡:編集局注)に出た。上段のメサ台地も見えて来た。しかしその横長の山容を見せる山頂がまだ遙か遠くに感じられた。

休憩のあと、鼻ぐり岩下の分岐に通じる作業道に入り、シカ防護ネットのゲートを通ったり、ヤブを分けたり、長い長い林道歩きなどのあと、午前 11 時過ぎにやっと鼻ぐり岩下の分岐に到着。

ルート探しとヤブコキ等で遅れて、山頂到着が遅れそうというリーダーの指摘。サブリーダーに合わせてハイペースで登って来たが、疲労気味の参加者もいて 30 分ほどの休憩の後再出発。傾斜のある階段を山頂目指して登っていく。メサ上段の台地が上がって少し行ったところの、右手の岩場に記念碑が埋め込まれているところへ案内された。安東リーダーの説明では当山岳会の大先輩(故 矢野真会員・日田市・歯学博士:編集局注)のレリーフだとのことだ。レリーフに向かって全員で黙祷。

そして長い草原状の台地を進み、12 時 07 分に山頂到着。山頂からの景色を見ながら昼食タイムだ。昼食後の記念写真の時間も含め 40 分程過ごせた。

山頂発 12 時 40 分。鼻ぐり岩下の分岐到着も、予定より時間超過ということもあり、残念ながら鼻ぐり岩を見る事が出来なかったのは残念。



万年山山頂にて

急いで下山。途中の模範牧場跡地で 20 分程の休憩を取ったが、体調を崩したり、怪我をしたりする人も無く、迷う事やヤブコキも無く順調に下山できた。おかげで下山予定の 16 時 30 分頃よりも早目の 16 時前に駐車場に到着。

行動時間は 6 時間 30 分程・休憩時間を含めると 7 時間 20 分余りの山行であった。駐車場で解散式のあと各車で岐路へ。

万年山の初山行は、吉部台登山口からでミヤマキリシマが楽しめる頃だったが、今回は、歩く距離の長さとルートを探しながらの山行、そして、万年山の二重メサ台地の成り立ちも少しは感じながら登れるなど、新しい発見があったことは、良かったと思う。

<参加者>リーダー…安東、飯田、久保、牧野、中島、丹生、神田、久知良、長野、遠江、芝田、柳瀬、岩崎、清水(道)、清水(久)、笠井、指原、平原、井伊、川野、

青年部研修山行報告

宇土内谷 (1 月 27 日(日))

矢上 将大 (会友 144)

全 4 回で組み立てられた平成 29 年度の青年部研修、3 回目となる今回の山行は 1 月 27 日(日) 宮崎県の宇土内谷で開催された大分県山岳連盟主催の氷雪技術講習会に、JAC 東九州支部青年部も参加させて頂いた。

私としては、しばらく青年部活動に顔を出せていなかったもので、「久しぶりなのに、アイスクライミングって、大丈夫かな?」と思ったものの、好奇心が勝り、まだ知らない山の魅力を味わいたいという想いで参加した。

当日は早朝 5 時 30 分に大分市内を出発した後、途中比叡山駐車場にて前泊組と合流し、午前 8 時 30 分に目的地近くの駐車場に到着、天候は雨から雪へ変わっていた。

山岳連盟副会長による講習会開始挨拶と各団体合わせて 17 名のメンバーの顔合わせをした後、雪が降り積もる中、林道を訓練場所へ向けて歩き始めた。強い寒気のため、宇土内谷のあたり一面は凍り付いていた。今回

は三段滝手前にある雪と氷に覆われた急斜面を訓練場所とした。各自装備を整え午前9時過ぎより訓練を開始した。

まず始めに講師の安東さんより、「自分勝手な行動を取らず、リーダーの指示に従い、チームとして行動する。」という、基本的なことだが重要な注意事項が青年部メンバーへ伝えられた。

訓練の前半部分は、アイゼンとピッケルを使用した歩行練習。これまでの青年部山行では、雪や岩の上でのアイゼンワークは経験したが、氷の上は初めての研修だった。12本の歯がしっかりと氷に食い込ませながら、一歩一歩丁寧に、登り・下りの練習を行っていった。

後半部分は、各レベルに分かれてトップロープによるアイスクライミングの練習を行った。アイススクリューで支点を取り、セルフビレイを行った後は、ロー操作、確保の方法を思い出しながら、一人ずつ登攀を開始。ビレイ時のロープ操作の手の位置など、まだまだ基本的な動作の習得が出来ていなかったを反省。今回の合同研修では、他の団体メンバーとの交流を通じ、経験や技術の大きな差を感じたことで、青年部の現在のレベルを確認できたが一つの収穫となった。



そして、午後2時頃には無事講習会を終え、より一層雪が降り積もる中「来年はバリバリ登ってやるぞ!」という想いを胸に宇土内谷を後にした。

青年部教科書：山と溪谷社 保科雅則著「登山技術全書 ⑥アルパインクライミング」

講師…安東桂三

参加者…田所・生野・指原・矢上

青年部研修山行報告

吉和冠山 (2月24日(金)～25日(日))

矢上 将大 (会友204)

平成29年度青年部研修(全4回)の最終回となる今回は、雪上歩行技術・雪上生活技術習得を目的に2泊3日(山中1泊)で、広島県廿日市市にある吉和冠山(1339m)に行ってきた。今回の山行は、都合が合わず参加できなかった青年部員は、生野さん、筆者矢上の2名。それに会友の笠井さん、講師の安東さんを加えた4名となった。

山行前の会議(2/8)では、リーダー生野さんが作成した登山計画書を基にルート確認、装備確認、日程の調整等を行った。また今回の山行は、雪山ルートとなるため、各自しっかりと1/25,000地図を読み込み、当日を迎えた。

<1日目>23日(金) 20時頃に大分を出発し、車の少ない夜の中国自動車道を走らせ、22時30頃には鹿野サービスエリアに到着。テント内で翌日の行動計画について話し合った後、24時に就寝。(今後の青年部活動について熱い話となるが、今回各自が持参したお酒が少ない事が判明。ほどほどに打ち切る。)

<2日目>24日(土)は晴天のもと7時30分には汐谷登山口に到着。各自装備を整え、8時には登山を開始した。今回の登りのルートは、一般登山道を通らず、山頂までに至る893m、906m、1129mそれぞれ3つのピークを越えて進んでいく。そのため都度、読図をして、現在地・行き先の確認をしながら、慎重にルートを見つけるのも課題の一つであった。

登山開始後、ほどなくして雪が深くなりワカンを着。メンバー入れ替わりながらラッセルを繰り返して進んでいった。順調に3つのピークを越え、11時20分にはクルソン仏岩に到着した。そこからは、一般登山道に合流した後、冠山東側1150mの台地を今回の幕地に決め、正午前よりテント設営に取り掛かった。

昨年の三瓶山研修では積雪が少なく出来なかったが、今回はテント設営のための整地作業や雪を切り出した防風壁づくり、各自のトイレ設置作業も行うことが出来た。

テント設営後は冠山山頂を往復してきた。雪山のルートは雪崩の危険を避ける為に尾根上を進んでいくのがセオリーだが、一般道の谷沿いを進むというミスを安東



冠山山頂にて

さんに指摘され、まだまだ甘さを痛感する。13 時 30 分には吉和冠山山頂（1339m）に立ち、皆で記念撮影を行った。

テントに戻った後は、これまでの研修の復習を兼ねてロープワークを行いながら山談義に花をさかせ有意義な時間を過ごした。また、今回の山行の夕食、笠井さんの特製「チンジャオロース」は私のこれまでの山飯の中

では間違いなく No. 1 であり、この山飯の味を今でも忘れられない。（夕食後も、青年部活動について盛り上がっていくが、酒がなくなり大人しく就寝。）

<3 日目>25 日（日）は低気圧の近づきにより、天候悪化が予想されたため、早めの撤収作業を行い、一般登山道を汐谷登山口へ向けて下っていった。そして、お昼過ぎには大分に辿り着いた

今回の一連の研修を終えて、ロープワークや雪山技術など各自がスキルアップを図れたことは勿論だが、「仲間と共に技術を磨き、夢を語りながら、登山を楽しむ。」という青年部活動の意義を確認し合えた事、それが何よりの収穫となった。最後に、今回の研修講師を務めて頂いた安東さんに感謝を述べたい。

講師…安東桂三

参加者…生野・矢上・笠井

個人投稿

ペンリレー・第 2 5 回

青年部活動に思う

田所 歳 朗 (14024)

某日、東九州支部事務局より着信あり。折り返し電話すると、ペンリレーの原稿の依頼だった。支部報を読む度、そろそろ順番が回って来そうだと、心の準備はしていたが、内容の準備まではしていなかった。何を書いたら良いのやら。読者は何を求めているのか。検討がつかない。

まずは自己紹介。田所歳朗、今年 47 歳、大分市在住で出身は杵築、家族は 4 人。今年は子供の進学で多忙な日々が続いている。2014 年までは家族で青少年体験登山に参加していたので、知っている方もいると思う。支部報平成 17 年第 30 号の表紙、最前列向かって右から 5 番目が長女、後が妻、妻の後が長男。（過去の支部報は日本山岳会の HP で閲覧可能）子供の成長につれ、家族での登山は減り、最近は青年部の活動が増えてきた。（反抗期ではない）

この場を借りて青年部の紹介。（青年部の役員なので）

青年部は主に登山技術の向上が目的で、東九州支部の 50 歳未満の会員、会友が対象。研修山行の講師は安東副支部長。山行の度に「本を読め」「練習しろ」「装備を揃えろ」と言われるが、夏休みの宿題を 2 学期の放課後にしていた

私にとって、予習復習は最も苦手。しかし、心を入れ換え勉強しようと思う。本も買ったので読んではいるのだが、「結びと道具が多すぎるんじゃ～！」「何でやり方が何通りもあるんじゃ～！」と心の中で叫んでいる。今は経験を積み重ねている最中で、新しい事に取り組むのはとても楽しい。悩みは、若いメンバーと交流が少ない事。研修山行以外にも皆が参加出来る事も計画したいから、たまには会合に来てくれないかな？（役員からのお願いでした）



最後に時々聞かれる「登山を始めたきっかけ」を書いて終わりたいと思う。

ある日、溪流釣りをしていてかなり上流まで釣り上がった。川を下って帰ると何かあったら日が暮れるかもしれない。今なら少し時間に余裕があるので道を探そう。と、杉林の中を進むと登山道発見。登山道で帰ると何時間もかかった道のりも1時間弱。これは便利。もっと登山道を調べようと思い、買った本の表紙が大崩山の写真で『こんな所があるのか?』さっそく大崩山に行ってみた。う〜ん。登山って面白い。これがきっかけで、何度も大崩山に足を運んだ頃が懐かしい。と言っても十数年前の話で、「ワシが若い頃は〜」と言えるようになるのは、まだ先の話。その頃にはペンリレーが回ってくるかな。

次回ペンリレーは 下川智子会員(14505)にお願いしました。お楽しみに。

より安全な登山のために

N028

『本当に 登って良いか』

安東桂三 (9193)

阿蘇山噴火警戒レベルと阿蘇登山規制を考える
我々に身近な阿蘇山、約30万年前より火山活動を始め、現在では火山活動が盛ん。阿蘇山と言うと、北外輪山の鞍岳、南外輪山の俵山、冠岳、そして中央部の阿蘇五岳と、大きなエリアを指し、クライミングからハイキングと楽しめる。ここ10年は、火山活動が盛んで、その活動度を表すレベルは、昔は『火山活動度レベル』と言われていたが、平成19年12月より『噴火警戒レベル』が運用されるようになった。

阿蘇山の中岳や高岳に登るには、その『噴火警戒レベル』により、中岳火口の状況を把握し、火口から〇〇キロまでの登山をしても良いか否かが判断される。

また登山道は、火口の状況に関係なく、安全か危険かで、判断される。阿蘇五岳の山々は、阿蘇山遭難事故防止協議会（熊本県阿蘇地域振興局）の阿蘇登山情報にその詳細が示されている。

近年の阿蘇山は、火山活動に加えて『平成24年7月九州北部豪雨』『平成28年熊本地震』『平成29年7月九州北部豪雨』と影響を受け、登山道の安全が確保されていない。我々が、阿蘇山に登山する場合は、上記のレベルと情報を確認して、2つともOKなら、登山が出来る。

この原稿を書いている現在（4/19）では、どのようなになっているかと言うと。まず、3/3に臨時火山情報が発表され、火口1キロ圏内の立入規制となった。また、阿蘇中岳の火山活動が落ち着いた場合の登山可能なルートは、砂千里ルートと仙酔尾根ルート、仙酔峡ロープウェイ跡ルートから迂回ルートの3ルートのみである。た

だ、仙酔峡登山口から市道仙酔峡線は、工事のためアクセスは出来ない。

阿蘇山の孤立型微動の回数は、本年3月になって、毎日300回以上となり、特に3/4は1049回とびっくりするような回数となっている。この微動は何を意味するかは専門家でないので良く判りませんが、注意しなければならないことには、違いない。いま、噴火警戒レベルが『1』であるが、孤立型微動を考慮して、阿蘇登山情報は、『現在では、高岳、中岳に登る通行可能なルートはない』としています。

もし、孤立型微動が起らず、火口1キロ圏内の立入規制が解除された場合は、どうなるかと言うと、仙酔峡からの登山道は登れるが、仙酔峡までの道路が、立入規制なので、その仙酔尾根を歩きたい登山者は、砂千里などから高岳、中岳に登り、仙酔尾根を下れるが、仙酔峡から下りられず、また、下ってきた尾根道を登り返さねばならない。

以上、述べたことが、4/19の阿蘇山の状況だが、インターネットで、『仙酔尾根』とかで、検索すると、『仙酔峡道路を登り、工事現場は、その脇を通り、仙酔尾根を登ってきました』と言うようなブログなどが、検索される。それを見た人が『いいね』と拍手している。

何もないから良いようなものだが、『本当に 登って良いか』となると、少し頭をかしげてしまう。ネットで公開する人と、それを見て、『いいね』と拍手する人と、『なんだ阿蘇山は登れるんだ』と思う人と、私は、簡単に考える人のことを心配してしまう。

火山状況が収まり、市道仙酔峡線の復旧が終われば、各担当の気象庁や、協議会が、登山情報を更新すると思う。それからでも、阿蘇山に登っても良いと思う。

ただ、地球の年齢は46億年と推定されている。また、阿蘇山の年齢は、阿蘇カルデラが30万年前に噴火したとされている。それを観測しているのは、最近のこと。阿蘇山のことが、隅から隅まで、解っていないのに、正

しい情報が、真に理解されているとは言い難い。
やはり我々は、自然が見せる少しの安全の隙間をぬって、山に登ると考えたい。



『生と死の分岐』

安部 可人 (友11)

「生と死の分岐点」(ドイツ山岳会) シューベルト著
会報 80 号。青年部(50未満)以外で研修に参加したい方は、事務局まで申し出て下さい。意欲のある方を歓迎します。優れた指導者安東氏の研修会の参加者(青年)が林しい、もったいない、苦肉の策よし。好人物田所さんがあと2〜3人いればなあと思う。意欲のある笠井美世さんはすでに実行している。

図書館からこの本を借りて読み始めて、80号p.7で安東研修会反省会で著者「シューベルト」(膨大な岩場の遭難記録)を会員に紹介している。「本を読む」安東さ

んの指導は完璧だ。専門用語は分からないが、一般登山でも通じる遭難対策がよみとれるので、要点を抽出したい。驚くべきは600m滑落しても生きている。運があれば、穂高の転落でも生きている。その瞬間脳は働き有利な防御姿勢をとるのだ、と信じる。(山で自殺する人が増加傾向、H29大分では鶴見・祖母で2人死亡、安東情報では自殺らしい)生存者の話「墜落中はただちに死に至ると悟るが、至福の快感と完全な冷静さを感じる、喜んで運命に身を委ねる(自殺志願者読むな)。怖くもないし、痛くもない。次は日本では滅多にないチムニー、あれにはさまった事故は救出に大変。次、ヘリが救助して飛び立ったら、なんと確保のロープがハーケンにつながったまま、ヘリ墜落危機一髪(引き上げロープはレバーで切断する装置あり、機長判断)。不注意、聞き違い、勘違いが命取り 終了点にたどり着きほっとして「OK」と呼びかけ、確保者は「ビレイ解除してよい」という意味に理解した。念には念を入れて確かめる。好天が続くとはかぎらない。天気予報に注意!(九州からの遠征ではリタイヤの判断が難しい)テントは落雷を受ける。支柱は深く刺すと電流がぬける。車やロープウェイは安全は「ファラデーの箱」実演による。くぼ地の樹木にも見えない水脈があり落ちる。雷が人間避雷針から上手に地面にぬけるのは運。50年前西穂高の独標で集団登山の高校生11名死亡、運が悪い。岩穴もあぶない。窓に落ちるから、車の窓は閉める。ワイヤーや鉄はしごも避雷針、前兆のない不意打ちの落雷は対処仕様がな。雷に吹き飛ばされるのが怖い。頂上に長居しない。落石を誘発する。箱の中心が安全、岩が箱の外郭とすれば3m離れる。1997年訳本の初版だから、20年前に書かれた本、著者は83歳になる。以来登攀用具は完璧に進歩を遂げた。その当時はロープ切断、カラビナ割れた、ヘルメット割れたとか欠陥品があったらしい。「腰ベルト付きシットハーネスと胸ベルト」が安全とか、「ブーリン結び」はなぜ使われなくなったか、専門すぎて分からない。腰を支点として頭部と脚部がへの字に折れた遺体など生なましい写真を沢山みる。昔話 谷川岳の宙つりの遺体は自衛隊の機関銃でロープ切断降ろされた。登攀用具不備、何百人も死んだ。当時は現地茶毘だった。燃やし役がいて、腹を裂いて火を通したという。21歳の安部はワングル仲間と谷川岳をノーマルルートで登頂、山頂の肩の小屋で霧が立ち込め妖気を感じた。今ぞ知るが、なんとあの辺は迷いやすいのだ。岩風呂に入ったのは覚えている。地図も読めない、雨具もない無謀な登山だった。駒ヶ岳では8合目の小屋で先輩がラジウス

を炎上させ、頭髮が燃えて雪に突っ込んだ。蕨崎までの下り5時間はきつかった。老人は昔話が好きです。

私の無名山ガイドブック(第68回) 古田 (876.8m) 米精山 (7820m)

飯田 勝之 (10912)

今回も津江のヤブ山歩きの紹介だ。地図と地形を読みながら、目指すピークに至る道のない山を楽しめる。

古田

大分・福岡・熊本の三県境にある三国山(993.8m)から、北に連なる稜線は福岡県との県境を



なして、いくつかの950m台の小ピークを連ねながら国道442号の旧竹原峠(750m)へと高度を下げていく。そのいくつかのピークの内の、900m台の最後のピークがこの地点である。

県道鯛生菊池線と日田鹿本線が分岐する地藏元から日田鹿本線を2.3kmほどいったところから右に入るコンクリート舗装の林道がある。ここが入り口で、鎖のゲートがあるがここより歩いて登る。約30分(1km)ほどの所から左に入る送電線「熊本日田線」の巡視路があり、この道を登るとよい。30分弱で送電線鉄塔の下に着く。

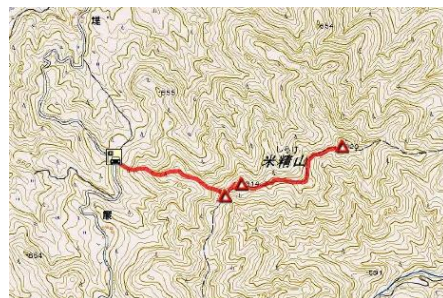
ここから北東に向かって県境稜線伝い登りで、ややきつい登りで954mの標高点を過ぎたら一旦緩く下り、あとは緩いアップダウンの道が続く。所々ヤブがあるがほぼ快適な稜線歩きが続く。鉄塔から40分あまりで、最後の急登はあり、一息で登りきると小ピークである。ここは三国山から猿峯山(968.1m)間の最高地点で、中央に三角点があり、樹間から大分、福岡県境に連なる山並みが展望できる。

25,000分の1地形図...宮ノ尾

参考タイム... 林道ゲート→30分→巡視路入り口→30分→鉄塔→45分→三角点

米精山

『こめしらげ』と読む。日田から津江にかけてはからに難読な、あるいはユニークな呼び名の地名・山名が多い。難読度日本NO1の「一尺八寸：みおやま」、NO3の「月出山岳：かんとうだけ」はその代表格だが、この山の近くにも「チーゴ岳」「シシガ城」「ハナグロ山」「胴切山：ドウキンヤマ」などがある。



中津江と上津江の二村を隔てる長大な稜線を持つ酒呑童子山は南部津江の雄だが、その東の稜線上にはいくつものピークを持つある兵古山があり、その山の1051mのピークから北に大きく分派する稜線がある。この稜線は緩くアップダウンしながら高度を下げて行き、最後に800mを超す4つの小ピークを連ねる横に長い山体があり、ここから一気に高度を下げていく。この東西に長い山が米精山で、三角点はその一番西の小ピークにある。ダム街、柄原あたりから見るとちょっと目立つピークで、登頂意欲が駆られるところだ。

中津江と上津江の二村を隔てる長大な稜線を持つ酒呑童子山は南部津江の雄だが、その東の稜線上にはいくつものピークを持つある兵古山があり、その山の1051mのピークから北に大きく分派する稜線がある。この稜線は緩くアップダウンしながら高度を下げて行き、最後に800mを超す4つの小ピークを連ねる横に長い山体があり、ここから一気に高度を下げていく。この東西に長い山が米精山で、三角点はその一番西の小ピークにある。ダム街、柄原あたりから見るとちょっと目立つピークで、登頂意欲が駆られるところだ。

この山に登るには、国道441号の間地トンネル出口から作草、堤へ通じる市道から登るのがよい。堤を過ぎてさらに行き、簾の民家から700mほど手前に、左に斜めに下る作業林道がある。この分岐のところから東に、植林地の中を登るのがよい。道はないが稜線状のやや急な斜面をまっすぐ登ると、15分あまりで左下に作業道を見る。下の分岐から入ってここに達せられるが遠回りである。

稜線はまっすぐ上へ続いており、道としては判然としないが歩きやすい尾根である。まっすぐ登ると20分ほどで740mの小ピークに達する。ここからわずかに緩く下って再び急登となり15分で、兵古山から連なる主稜線の小ピークに達する。ここから直角に左(北東)に折れ、5分余り登ると4等三角点のあるピークに達する。主峰はここから20分あまり緩いアップダウンの先にある820mの独標地点であるが、10分ほど行ったところのピークからほぼ直角に左に折れ、緩く右に曲がって最後の急登で達せられる。

25,000分の1地形図...鯛生

参考タイム... 市道→40分→740mピーク→20分→三角点→20分→山頂

大分百山完登

(No 6)

大分百山完登を振り返って

丹 生 浩 司 (16103)

登山教室までに山に登ったのは中学の時キャンプで久住山に、20 歳の時兄弟で傾山に登った 2 回だけであった。新聞で東九州支部の登山教室を知り、妻と相談の上参加した。百山最初の山は平成 26 年 9 月 28 日二人で登った由布岳、山頂に立つことができず途中で下山した。

日一人で由布岳に登りお鉢まわりをして次回妻を連れての登山に備えた。登山教室での山行きを体験して、久住の山々や国東の山々に二人で出かけた。

百山の中で唯一道迷いをした華岳、下山途中で道に迷いルートを外れた。妻の「引返そう」の言葉で再度山頂に向かい山頂の少し下でルートを見つけ無事下山することができた。このことがあってからはその後の登山は慎重になった。

地図とコンパスの使い方を習ったおかげで随分と助けられ、今はGPSがプラスされ、とても便利になっている。

1 月から大渡さん、唐津さん、清水(久)さん、妻との 5 人で百山完登を目指すことになり、皆さんとの登山を優先する。日程が合わないときは一人で一日 3 山登ったことも。また、5 月には宮原さん、桜井さん、大渡さんと 4 人で祖母山から傾山まで縦走もした。

雨と風が強い中登った城ヶ岳、そして最後の山、岳滅鬼山、日田からのルートが使えず福岡周りの登山で東峰村から縦走、時間にして約 5 時間 30 分から 6 時間、山頂付近には雪が少しつもり冷たい風が吹く中 5 人で手をつなぎ一緒にゴール。一緒に登ってくださった皆さんと乾杯をして万歳！

三年という月日がかかったが、いつも登山口まで案内していただいた支部長、一緒に登ってくださった皆さん本当にありがとうございました。

会 務 報 告

2. 支部レームの開設について
3. 若年会員入会金の補助制度について

支部の会議報告

支部定期総会

4月21日(土) コンパルホール「視聴覚室」

平成29年度事業報告

平成29年会計決算報告

平成29年会計監査報告

平成30年度事業計画

平成30年度予算

その他

支部役員会

第6回役員会 1月17日(水) コンパルホール

1. 平成30年度事業計画について
2. 登山計画書の提出に関する取り扱いについて
3. 登山入門教室実践講座について
4. その他

第7回役員会 4月6日(金) コンパルホール

1. 平成30年度定期総会の議案について

お知らせコーナー

月 例 山 行 の ご 案 内

5月月例山行:五葉岳(1569.6m)

(アケボノツツジをたずねて)

日 時…5月3日(木)

出 発…5月3日(木)午前5時00分

集合場所…大分駅南口(上野の森口)

装 備…一日ハイキング装備・食料

6月月例山行:尻付山(587.3m)・ハジガミ山

(570m)

(ちょっとマイナーなアブ山へ)

日 時…6月24日(日)
出 発…6月24日(木)午前6時00分
集合場所…大分駅南口(上野の森口)
装 備…一日ハイキング装備・食料

7月例山行:鬼ノ目山(1491.0m) 国見山(191.5m)

(宮崎県・ツチビノキをたずねて)
日 時…7月29日(日)
出 発…7月29日(日)午前5時00分
集合場所…大分駅南口(上野の森口)
装 備…一日ハイキング装備・食料

研修山行のご案内

6月 6月16日(土) 鳴子川(九重連山) 沢歩き
吉野駐車場 8時30分集合
ヘルメット、ハーネス、沢シューズなど
7月 7月1日(日) 成瀬谷(古祖母山) 沢登り(初級)
尾平トンネル宮崎県側 駐車場 9時集合
ヘルメット、ハーネス、沢シューズなど
8月 8月18日(土) アキギリ谷(古祖母山) 沢登り(応用)
尾平登山口駐車場 7時30分集合
ヘルメット、ハーネス、沢シューズ、カナピラ、
ヒレディバイス、スリングなど
問い合わせ・参加申込 いずれも、安東桂三まで
090-5727-9472 メール keizoando@xa3.so-net.ne.jp

スズタケ枯死・シカの食害調査

参加者募集

日 時…6月2日(土)
場 所…本谷山西の稜線の定点観測地点
集 合…午前7時「道の駅・原尻の滝」
行 動…尾平越トンネル口から旧尾平越に登り、大分植
物研究会の皆さんと定点観測と調査登山の共同作
業を行います。
参加者…この調査にボランティアで参加できる方は5月
25日(金)までに支部事務局へご連絡ください。

花の山旅・くじゅう連山

主催 本部山行委員会(東九州支部コラボ)
期日 6月8日(金)～10日(日)
日程 8日…涌蓋山

(八丁原ビューホテル泊)
9日…牧ノ戸峠～久住山～中岳～法華院
(法華院温泉泊)
10日…坊ガツル～大船山～吉部

参加 ガイド及び同行山行で参加できる方は加藤支部
長までご連絡下さい。

※ 本部山行委員会が全国の会員の参加募集を呼びか
けて実施するもので、大分空港または別府駅参集の参加
者を現地で迎え入れて対応するものです。

新入会員オリエンテーシ ョンのご案内

時 期 6月28日(木)午後6時から
場 所 大分市 コンパルホール
対 象 平成28年度以降に支部会員(会員・準会員・会
友)となった方
(但し、それ以前の加入者で、オリエンテーショ
ンに参加されなかった支部会員は参加できます
内 容 ① 日本山岳会の歴史・組織の現状・活動の内容・
年間の主な行事など
② 東九州支部の歴史・組織の現状・活動の内容・
年間の主な行事など
③ 支部会員としての心構えや認識
④ 会員としての日常の登山活動における注意
事項や登山の楽しみ方、味わい方、仲間づく
りなど
懇親会 終了後支部役員との懇親会も予定しています。
(会費: 3,000円)

第1回支部役員会の開催案内

平成30年度第1回支部役員会を下記の通り開催しますの
で役員の方はご参集下さい。

日 時…5月10日(木) 午後6時00分より
場 所…大分市「コンパルホール」
議 題…① 平成30年度事業計画の具体化
② 当面の諸行事の実施について
③ その他

当面の支部ルーム予定

5月2日(水) 18:00~21:00 大分市東部公民館
 6月1日(金) 18:00~21:00 大分市西部公民館
 7月6日(金) 18:00~21:00 大分市西部公民館
 (7月は確定ではありませんので、変更の場合はメールでお知らせしますが、出席されるときには事前に事務局に確かめて下さい)

新入会員・会友紹介

平成29年度新規加入会員

大渡崇夫 29年5月入会(会員番号 16206)
 唐津敏徳 29年5月入会(会員番号 16208)
 尾登憲治 29年6月入会(会員番号 16228)
 神田美代子 29年7月入会(会員番号 16235)
 加納信雄 30年4月入会(会員番号 16310)
 佐藤裕之 30年4月入会(会員番号 16315)

平成29年度新規加入会友

長尾幸徳 29年10月入会(会友番号 218)
 長尾美江 29年10月入会(会友番号 219)
 佐藤裕之 30年1月入会(会友番号 220)
 加納信雄 30年1月入会(会友番号 221)
 小川敦子 30年2月入会(会友番号 222)
 小山妙子 30年4月入会(会友番号 223)
 川野実紀 30年4月入会(会友番号 224)
 大星三千代 30年4月入会(会友番号 225)
 平原瑞枝 30年4月入会(会友番号 226)
 井伊八千代 30年4月入会(会友番号 227)
 仲道史枝 30年4月入会(会友番号 228)
 河野智恵 30年4月入会(会友番号 229)

後記

- ・支部のルーム設置は当支部の密かなるあこがれであった。支部会員が気軽に立ち寄って、山の情報をあさったり、持ち寄ったり、交換したり、発表したり…。次の山に挑戦するための仲間とのルートや日程や装備などの打ち合わせ。いろんな山の相談や、自分たちの登った山の報告や発表・・・ECT。
- ・そんなことを気軽にできるところはないか、どこか安価で借りられる部屋があればいいが、田舎に行けばあるだろうけど、街中で探せば支部の予算力で対応できるような部屋は考えられない。
- ・そんな中、浮かんだ案が市の公共施設の貸し会議室等を定期的に借用することだった。定期総会で出された支部ルーム設置案。事前のアンケートでは素案に好感は持たれている。とにかく運用してみようとなった。活用を期待したい。

(K・I)

公益社団法人日本山岳会東九州支部 東九州支部報 第81号

2018年(平成30年)7月25日発行

発行者 加藤英彦

編集者 飯田勝之

印刷所 佐伯印刷株式会社

発行所 事務局

〒874-0820 別府市原町5-14 飯田方

TEL・FAX 0977-21-3437

E-mail yamatomoki@ari.bbq.jp



1968年創業の**山溪**が
あなたのアウトドアライフをサポートします。

山道具の
110番
開設中!

靴が合っていないのか、登山に行く度足が痛くなる…。リュックサックが肩にくい込む。テントが雨漏りする。道具の使い方がわからない…等々、弊社ご購入品にかかわらずご相談に応じます。

山溪

西日本最大級の品揃え!

since 1968

登山・キャンプ専門店

大分市生石1-3-1

GO ミ ナ サンサンサン
TEL 537-3333
FAX 537-3388

- 西大分「交番」前高崎団地入り口
- JR西大分駅より歩いて6分
- 10時~19時30分 ●火曜定休日